

ENGL E646 VS プラグイン

真空管ギターアンプのフィジカル・モデリング、スピーカー・シミュレーションとFXラック

オーナーズ・マニュアル



スタンダードアンプ・ビュー

Plugin Alliance LLC (米)のBrainworx GmbH(独)によってライセンスを受け開発されました。Universal Audioにライセンスされています。

ENGL

brainworx
music & media gmbh

UA
UNIVERSAL AUDIO

PLUGIN ALLIANCE

ENGL E646 VS Limited Edition プラグインは、他のUAD-2プラグインと同様にインストールし、使用することができます。
システム必要条件などその他の情報については、www.uaudio.com をご覧ください。

ENGL E646 VS Limited Edition プラグイン

フィジカル・モデリングを行った真空管ギターアンプ、スピーカー・シミュレーションとFXラック



FXラック / ズーム・ビュー

はじめに

ENGL E646 VSプラグインは、ギター・アンプシミュレーターの新しいレベルを提示します。これはオリジナルの真空管アンプの回路を忠実にデジタル領域で再現しており、複数の状況でギタリストを支援する重要なツールを追加しています。スタジオで、ステージ上やリハーサル・ルームで存分にご使用いただけます。

FXラック・ビューでは、ノイズゲート、ビンテージディレイ、64種類のワールドクラスのレコーディング・チェーンや、オンボードのパワーソークを含むパワーアンプを使用することができます。

このプラグインの主な用途は以下の通りです。

1. DIから入力したギターをレコーディング。その後、内部のアンプ・シミュレーション、レコーディング・チェーンやFXラックを使用してDAWへ完璧にエディット、プロセッシングを行う。
2. ハードウェア・プリアンプ使用してレコーディングし、パワーアンプのシミュレーションとレコーディング・チェーンを使用
3. ホームスタジオのスピーカー、ステレオ・スピーカー、ヘッドホンや本物のギターアンプとキャビネット等を使用して最小限のレイテンシー(例: Apolloのコンソールを使用)で自宅練習に使用。
4. ハードウェアのパワーアンプとスピーカーのセットアップを使用してライブ・プレー(プリアンプとして使用)
5. ライブコンソールやインイヤー・システムに直接接続してライブ演奏
6. 他のアンプ・シミュレーターで以前にレコーディングしたDI接続のギタートラックを完璧にリアンプ

これらの機能は、個別に使用したり、バイパスすることができます。例えば、プラグインのプリアンプをバイパスし、ハードウェアのプリアンプを使用し、プラグインのパワーアンプとレコーディング・チェーン、FXを使用してレコーディングすることが可能です。

補正されていないプリアンプの出力をそのままオーディオ・インターフェイスのラインインに接続し、本物のギター・サウンドをレコーディングしてください。これは平均的なアンプ・シミュレーションではありません。



ベーシック

本物のENGL E646 VSチューブアンプを使用するのと同じようにこのプラグインのアンプ・セクションを使用することができます。
このオーディオ・インターフェイスを通して接続するギターアンプ・プラグインは、アンプのチャンネルを選んで、ゲイン、トーンとボリュームを調整したら…あとはギターをかき鳴らすだけです！

ENGLプラグインは、Apolloシリーズのインターフェイスと共に使用するよう開発されました。ENGLプラグインはもちろんどんなUAD-2デバイスでも動作しますが、超低レイテンシーでリアルタイムにプレーするにはApolloインターフェイスを必要とします。

良いプロデューサーのトリックの1つとして、ギターのレコーディング時にDIからの信号だけを録音し、トラックリングする時には、コントロール・ルームでリアルタイム・モニタリングするには、リアルなギターアンプ(小さなコンボ等)を使用することです。その後、残りのレコーディング、トラックを再生するときにENGL Guitar Ampプラグインを使用してください。ドライシグナルをスプリットして、プラグインでプロセッシングしたサウンドと同時にリアルなギターアンプにもルーティングすることもできます。

ドライのDIから入力するギターをプレー、レコーディングを最も低いレイテンシーと可能な限りハイクオリティなトラックにするには、ギターをApolloインターフェイスのHi-Z入力に接続するか、さらにハイクオリティなDIボックス、マイクプリアンプを使用し、それらをApolloシリーズ・インターフェイスのライン入力に接続します。

コンソール・ソフトウェアのインサートエフェクト・スイッチを切り替える

ENGL E646 VSプラグインを(できるだけ少ないレイテンシーで使用するために)コンソールソフトウェア・ミキサーにインサートした場合、ギター・サウンドをプロセッシングしたウェット・シグナルをレコーディングする場合には、インサート・エフェクトを“REC”側にスイッチし、トラックリングする際にアンプ・サウンドを聴きながらDIからのドライサウンドをレコーディングしたい場合にはインサート・エフェクトを“MON”側にスイッチします。

プロセッシングされた音をモニターするのみの場合の長所は、ミックスダウン時にアンプやFXのセッティングを自由に変更できる点です。ゲインやディレイのより良いセッティングに気づいた場合にいつでも修正することが可能です。

プロセッシングした音をレーディングする場合の利点は、ギタートラックミックスする際にプラグインを必要としない点です。しかし、レコーディング後にギタートラックに対し、ハードウェアのアンプでレコーディングした時と同様にEQやコンプレッサー等のエフェクトを追加することも可能です。ギターのサウンドを“知っていて”微調整をする必要なくプロセッシングしたギターをレコーディングできる場合、若干の時間を節約することができます。…そしてそれはバンド仲間や、プロデューサーに喜ばれることでしょう！



ENGL アンプ・セクションのコントロール

チャンネル・セレクト 1-4 (上下左右の矢印、またはチャンネルセレクト・スイッチで選択)

E646 VSアンプは、4つのチャンネルを搭載しています。上段のチャンネル(1&2)と下段のチャンネル(3&4)をハードウェアと同じように切替えて使用することができます。別の方法としては、チャンネル・セレクトLEDを使用して各チャンネルにダイレクトにアクセスすることができます。

ゲイン 1-4 (チャンネルごとに調整可能):

ゲイン・ノブをダイヤルしてクランチやディストーション量をお好みの位置にセッティングしてください。それぞれのチャンネルには独立した専用のゲイン・コントロールがあります。チャンネル1は、“クリーン”チャンネル、チャンネル2は、“クランチ”チャンネル、3&4チャンネルの両方は“リード”チャンネルです。

トーンスタック(バス、ミドル、トレブルをそれぞれのチャンネルでコントロール):

他のギターアンプと同じようにENGLアンプにもギター・トーンを柔らかくしたり、激しく、ローエンドを加えたり、カット、またはミッドをブースト/カットするためのトーンコントロールを備えています。トーンスタック・コントロールの調整方法にルールはありません。サウンドがかっこ良く聴こえたら、おそらくそれは正解です。プリセットをブラウジングして様々な設定のサウンドを聴いてみてください。それらは、テレキャスター、ストラトキャスター、レスポールの一般的な使用されるギターに合わせてカスタマイズされています。

ミドルボイス(チャンネル3と4のみ):

チャンネル3, 4チャンネルには、2つの異なるミッドコントロールがあります。2つのサウンド・オプションを切り替えるとお好みに合わせてリフやソロに合わせた音色を作るために使用することができます。

トレブル x2 (チャンネル1と2のみ):

チャンネル1, 2には、各チャンネルに専用のトレブル・コントロールがあります。この方法で、簡単にクリーン、そしてカリカリしたサウンドにギターやピックアップのサウンドを調整することができます。

マスター A & B

オリジナルのハードウェアE646アンプには、異なる全体的なボリュームを設定できるよう2つのマスターボリュームがあります。例えば、リズムとリードのボリュームをオートメーションで使い分けることができるように両方のチャンネルをモデリングしました。マスターA&Bの間にあるスイッチをクリックすることで両方のチャンネル間を切り替えることができます。

プレゼンス

プレゼンス・コントロールを使用すると超高域部分をブースト/カットすることができます。お好みに合わせて調節してください。プレゼンス・コントロールは、アンプの4チャンネルすべてに影響を与えます。異なる設定をその場でリコールするには、ツールバーのA/B/C/Dの設定スイッチを使用することができます。

デプス・パンチ

このツマミによってローエンドのサウンドを追加します。レコーディング・チェーンの一部で低域が少ないと感じる場合、“デプス・パンチ”を上げることでローエンドを充実させることができます。このコントロールは、パワーアンプに搭載されているので、E646の4チャンネルすべてに影響を与えます。異なる設定をその場でリコールするには、ツールバーのA/B/C/Dの設定スイッチを使用することができます。

スタンバイ/パワー

この2つのスイッチによって、プラグインのすべてのプロセッシングをバイパスさせることができます。本物のアンプと違い、プラグインでは、真空管を温めたり、スピーカー・キャビネットを保護する必要がないので、この2つのスイッチはリンクしています。

プラグインのアンプ・セクションのみをバイパスしたい場合(ハードウェアのプリアンプを使用する場合)、FXラック/ズーム・ビューを使用してください。パワーソーク・セクションに必要なコントロールを見つけることができます。詳細は後述します。



ENGL FXラックのコントロール

ノイズゲート

‘CLOSED’ LED

このLEDが点灯しているときは、ノイズゲートが閉じている事を示します。これは“スレッシュホールド”が、ギターのスグナルよりも高く設定され、ノイズゲートの“レンジ”コントロールでの調整量(上図では15dB)によってアンプの出力信号を下げる事を意味します。

ノイズゲート オン/オフ:

ノイズゲートを完全にオン/オフさせます。スイッチが上に向いている状態では、ノイズゲートが有効になっています。

スレッシュホールド:

入力した信号(この場合はギター)が特定のレベル以下に下がるとすぐにノイズゲートはアンプの出力を落とします。このレベルを“スレッシュホールド”といいます。オーバードライブ・サウンドのノイズが低減できる値に“スレッシュホールド”を調整しますが、行き過ぎるとロングトーンの減衰時に途中で音が切れてしまうことがあるので、注意してください。

レンジ:

入力した信号が“スレッシュホールド”の設定よりも低くなるとアンプの出力レベルは減衰、またはミュートされます。この“レンジ”を使用して2、3dBだけ出力を下げるか、最大限に設定することで完全にミュートすることができます。

アンプ・フィルター(プリ/ポスト切替え)

タイト・フィルター:

タイト・フィルターを使用するとDI接続のギター信号(プリ)、またはプロセッシングされたアンプ出力(ポスト)のいずれかの低周波数帯をカットすることができます。

プリ: ギターピックアップのサウンドの低域が出過ぎていると感じる場合、DIのサウンドがアンプに届く前にローエンドをフィルタリングすることができます。

ポスト: アンプ設定のローエンドの一部をカットさせるためにスタジオ・クオリティのハイパス・フィルターを使用することができます。

オフ: オフに設定するとバイパス・モードになります。

スムーズ・フィルター

スムーズ・フィルターを使用するとDI接続のギター信号(プリ)、またはプロセッシングされたアンプ出力(ポスト)のいずれかの高周波数帯をカットすることができます。

プリ: ギターピックアップのサウンドの多くのヒスやノイズをキャッチした場合、DIのサウンドがアンプに届く前にハイエンドをフィルタリングすることができます。

ポスト: アンプ設定のハイエンドの一部をカットさせるためにスタジオ・クオリティのローパス・フィルターを使用することができます。

オフ: オフに設定するとバイパス・モードになります。



ENGL FXラックのコントロール

レコーディング・チェーン(スピーカー・セクション)

RECチェーン:

シンプルに“REC チェイン”プルダウンメニューを通してブラウジングすることでスピーカーと、完璧なスタジオ・セットアップを選択することができます。

過去20年間の間、Brainworxのオーナー Dirk Ulrich は、DREAM THEATER、TOTO、MICHAEL JACKSONのメンバーとプロデュースやレコーディングを行い、多くの名盤を残してきました。ドイツのBrainworxスタジオ(www.brainworx-studio.de)にはわずか9台しか生産されていないNEVE VXS 72コンソールを設置、最高級のアウトボードEQやマイクプリとともに稼働しています。

この素晴らしいセットアップを使用してDirk は、ENGLアンプのための膨大な種類のカスタマイズした“レコーディング・チェーン”を作り、そしてそれは、プラグインのアンプセット・セッティングにも適用することができます。64種類のマイクングし、EQされたギターキャビネットを選択し、マウスを一回クリックするだけで即座に使用できるという便利さを想像してみてください！

多くのギターアンプ・シミュレーションは、キャビネットやマイクのいくつかの選択肢を与え、そしてEQやさらなるプロセッシングなどの不完全なセットアップを提供します。異なるマイク・セットアップのミキシングと調整可能なフェイズとEQなど。しかし、本当は簡単な仕事ではありません。これらを正しく設定するには長年の経験が必要です。

必要なすべての設定は、レコーディング・チェーンを選択肢、アンプ・チャンネルと設定の最高のサウンドが得られるよう、トーンスタックとゲインを調整してください。リコール可能で、信頼性が高く、フレキシブルですぐに設定が可能です。

また、何らかの理由でレコーディング・チェーンのサウンドがお好みに合わなかった場合、最後の手段としてキャビネットをバイパスし、その他のマイクイングされたキャビネットを使用することも可能です。この設定では、コンソールにストレートにワイヤリングされるチューブ・ギターアンプのサウンドを提供し、その音が素晴らしいエフェクト・サウンドになる場合もあります。

+/- スイッチ(プラス/マイナス):

RECチェーンのテキストボックス(上記参照)のどれを使用するかプルダウンメニューを使用するか、シンプルに+/-記号を使用してクリックすることでRECチェーンをブラウジングすることができます。

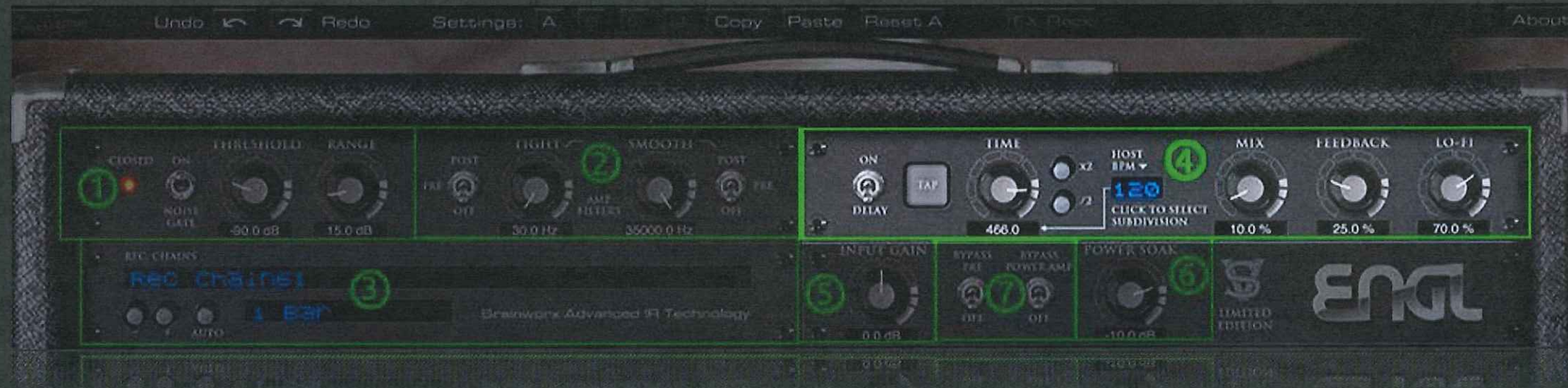
オート&小節セクション:

実際の曲に合わせた最高のサウンドがするRECチェーンを探す場合に2, 3のコードを弾き、再びマウスでサウンドを探し、またマウスをつかんで次のRECチェーンを探しているとサウンドを探すまでに疲れてしまいます。

ENGL amp プラグインを使用するとオート・モードを使用することができます。:

パターン(1, 2, 4小節)を選択するだけでプラグインは、DAWのテンポを設定後、使用できるRECチェーン・オートメーションが使用可能になります。プラグインが設定した1小節、2小節、4小節ごとに途切れることなく、シンプルに様々なRECチェーンを切替えて試聴することができます。

スピーカー・セットアップを聴いたらすぐにもう一度オート・ボタンをクリックすることでオート・モードを停止し、マニュアルで望ましいRECチェーンを選んでください。その後、よりお好みのサウンドになるようトーンスタックとゲインを使用して微調整してください。



The controls of the ENGL FX Rack

LO-FI ディレイ

ビンテージのストンプボックス・ディレイをモデリングし、その典型的なサウンドを再現しました。限られた周波数帯域、繰り返す度に高域が減衰していく等…。それ以外にDAWでコントロールするテンポへのシンク、ミックス・コントロールなど現代的な機能も追加しました。

もちろん、オリジナルのギター・トーンを実現するためにコーラス、フランジャー、リバーブと他のディレイのようなお気に入りの外部のエフェクトを使用することも可能です。それがプリセットを試したい場合でも素晴らしく、簡単なディレイが便利だと感じることもあります。

ほんの少しのディレイを聴くことなくリードやソロの音をテストすることは多くのプレーヤーにとって現実的に感じられないので、このエフェクトを追加しました。本当にビンテージディレイのようにディレイ レイ レイ レレ…となります。

ディレイオン/オフ:

このスイッチによってディレイとそのパラメーターのすべてのオン/オフを決定します。スイッチが上向きになっている時はオンになっています。下向きになっている時は、ディレイはバイパス/オフになっています。

タップ:

マウスを使用して“タップ・ボタン”をリズムカルにクリックすることでディレイタイムを調整することができます。DAWやBPMに基づいたテンポ、クリックトラックを使用してプレーしていない場合でもギターリフへのディレイのテンポを調整するにはこの方法を使用します。

タイム:

あるいは、“タイム”ノブを使用してミリ秒単位でディレイを設定することも可能です。最大ディレイタイムは、1,000ミリ秒です。

X2 & /2 (ディレイタイムの調整):

X2ボタンをクリックすると実際のディレイタイムを2倍に切り替えることができます。
/2ボタンをクリックすると実際のディレイタイムを半分に切り替えることができます。

両方のボタンは、最大ディレイタイムが1,000msを越えない範囲で繰り返し使用することができます。

ホストBPM:

このLEDパネルは、DAWホスト・ソフトウェアによってコントロールされているテンポを示します。(4/4拍、BPM表示)

ミックス:

必要に応じて、ドライのアンプ・サウンドとディレイ信号のバランスをとるためにミックス・コントロールを使用してください。控え目なディレイなら10%程度、ディレイ音を強調したい場合は50%以上の設定をお勧めします。

フィードバック:

“フィードバック”は、ディレイ音の繰り返し数をコントロールします。99%に設定するとほぼ無限のディレイ・ループになります。ロック・リードサウンドの典型的な設定は25%前後です。

ローファイ:

ローファイ・ノブを使用して内部ディストーション、リサンプリングのクオリティをコントロールします。高い値は、技術的な視点からは低いクオリティになります。しかし、多くのギター・サウンドやスタイルにとって興味深いサウンドに聴こえる場合があります。



ENGL FXラックのコントロール

インプット・ゲイン:

ENGLプリアンプの入力をよりハードに、またはソフトにしたい場合、インプット・ゲインを好みに合わせることが可能です。オールドやビンテージ・ギターいくつかのシングルコイル・ピックアップは、低レベルの出力なので、“インプット・ゲイン”によって補うことができます。

正反対は、多くのヘビーメタル・スタイルのハムバッカーを使用する場合です。あまりにもホットなDI信号をレコーディングする場合、またはENGLアンプの前に他のプラグインを使用している場合は、入力信号のレベルを下げるできます。

大部分の標準的なギターでインプット・ゲインを“0”にしておく必要があります。

内蔵パワーソーク:

現実の世界でのパワーソークは、ギター・パワーアンプの音量を低減させるために使用されています。この方法では、クリッピングを始めるまでギターアンプをドライブさせながら、聴覚を保護し、近所迷惑になることを避けるための音量でレコーディングすることができます。

クリッピングした真空管パワーアンプは、ギターアンプの信号に歪みや倍音を加え、ほとんどのギタリストが好きなサウンドです。パワーソークでボリュームを抑えたフルアップしたチューブアンプのサウンドは、マスターボリュームでボリュームをコントロールしたサウンドとは異なります。

我々は、ENGL真空管パワーアンプの挙動をモデリングしたので、アンプを内蔵パワーソークのマスターボリュームの様々な設定を試すことができます。ほとんどのケースで、だいたい-10dBの設定をお勧めします。

プリアンプとパワーアンプのアクティベーション:

バイパス・プリ:

バイパスプリ・スイッチを使用してENGLプリアンプのスイッチを完全にオフにすることができます。ENGLアンプ・プラグインを使用しつつハードウェアのプリアンプを使用してレコーディングしたい場合には、このスイッチをしようします。

この場合、内部のパワーアンプとスピーカー/RECチェイン・シミュレーションを使用し、外部のパワーアンプや、スピーカーを使用することなくギター・サウンドをレコーディングすることができ、驚くような結果を得ることができます。

スイッチが上向きでプリアンプがバイパスされ、スイッチが下向きでプリアンプがオンになります。

バイパス・パワーアンプ:

ENGLプリアンプの歪のみを使用したい場合は、パワーアンプのシミュレーションをオフに切り替える事ができます。ギター以外の信号を歪ませるためにENGLプラグインを使用する場合には、この設定の方がクールに聴こえるかもしれません。現実的なギター・レコーディングのために、アンプ・サウンドの全体的なサウンドに不可欠なものとして、パワーアンプをオンにしたままにすることをお勧めします。



ENGL FXラックのコントロール

セッティング / トップ・ツールバー:

アンドウ / リドウ:

ENGLプラグインのコントロールに加えた変更をいつでもアンドウ / リドウする事ができます。アンドウ / リドウは最大で32ステップまで動作します。これにより、実験的にノブを回すことを容易にします。調整した後で気に入らなければ、アンドウするだけです。

セッティング (A/B/C/D):

エングルアンプ・プラグインは、すべてのプリセットに4つのインターナル・セッティング (A/B/C/D) を保存することができます。一つのプリセット4つのアンプとエフェクトの設定を含みます。

すぐに異なるサウンドに切り替えることや、1つのセットアップ/プリセット内でリードからクラッチ、クリーンに切り替えることができ、ディレイの増減、異なるディレイタイムのセッティングなど、似たようなアンプのセッティングを使用することができます。

設定は、ほとんどのDAWホストのオートメーションに対応しています。この方法では、例えば、ディレイ音をドライナリズム・サウンドからウェットなリード・サウンドに切り替えることができます。

COPY / PASTE:

似たサウンドのバリエーションを設定するためにすべてのパラメーターを数回ダイヤルする必要はありません。セッティング Aのサウンドが気に入り、同じ音のバリエーションとして、ディレイ無し等、セッティング Bを使用することができます。

- セッティング Aを選択している間に“コピー”を押します。
- “セッティング”セクションで“B”を押し、セッティング Bに切替えます。
- “ペースト”を押し、セッティング Aとセッティング Bが同じサウンドになりました。
- ディレイをバイパスして完了です。

セッティング A&Bの間で同じサウンドをディレイの有無で切り替える事ができます。

FXラック:

スタンダード・ビューとズーム・ビューを切替えます。

ファクトリー・プリセット

多くは、ストラトやテレキャスター、レスポールのようなスタンダードなギターで完璧に動作するように作成されたENGLアンプ・プラグインのプリセットがたくさん保存されています。ファクトリー・プリセットはすべて A/B/C/D のバリエーションを提供しているので、それらを試してみてください。

これは、ブラウジングできるファクトリー・サウンドを効果的に4倍に増やします。似たアンプの設定に異なるフィルター、またはディレイセッティングによってまったく異なるように聴こえます。

これらのプリセットは、ENGLアンプ・プラグインでオリジナルのサウンドを作成することを簡単にするためのデモをすることを意図しています。

オリジナルのサウンド & プリセットの作成

オリジナルのサウンドを作成するときに調整する上で最も重要な要素はトーンスタックとRECチェーンです。

- (クリーンやリードなど) プレーしたいアンプのチャンネルを選択します。
- トーンスタックのすべてのコントロール(バス、ミッド、トレブル)を中心位置(12時)に設定します。
- ゲインやディストーションをお好みの位置にダイヤルします。
- トーンスタックを変更することなく、探しているものに最も近いサウンドを多くのRECチェーンを再生しながら探します。
- アンプ・セッティングの微調整とトーンスタックの調整を行います。
- ディレイやフィルター、ノイズゲート等を追加します。

アンプの異なるチャンネルとRECチェーンの膨大な選択肢は、様々な音楽スタイルやジャンルに合うよう、多くのコンビネーションを提供できると確信しています。

他のUAD-2プラグイン(ダイナミクス、エフェクト、ルームシミュレーション)とENGLアンプを組合せて、無数の世界トップクラスのプロダクションに使えるギター・サウンドを作る準備が完了します。存分にお楽しみください!